

子ども用



伝道地便り

2021年 第1期 ユーロアジア支部

第1話「聖ニコラスを信じる人々」	ウクライナ
第2話「神さまは何歳？」	ウクライナ
第3話「予期せぬ形での証」	ウクライナ
第4話「安息日は学校に行きません」	キルギス
第5話「イエスさまのために輝く」	ロシア
第6話「イヴァンの一番幸せな日」	ロシア

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証しされている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

1. 聖ニコラウスを信じる人々 ウクライナ



ダニエラ 14 歳

ウクライナ、ブチャの公立小学校に入学したダニエラは、とても寂しく感じていました。40人のクラスメートの中で知っている子は、ときどきいっしょに人形遊びをする子、1人だけです。他の子どもたちは同じ幼稚園出身なので、すでに仲良しでした。

学校で友だちを作るのはとても大変でした。ダニエラの家族はセブンスデー・アドベンチストでしたが、クラスには誰1人ダニエラと同じような子はいません。みんな、それぞれ全く異なる育てられ方をしていて、「友だち」についての理解も異なりました。そして極めつけに、みんなある「祝日」をお祝いするのです。

ある月曜日、ダニエラが学校に行くと、子どもたちは、週末にもらったプレゼントのことを楽しそうに話していました。みんなは、12月19日の「聖ニコラウスの日（サンタクロース・デー）」をお祝いし、プレゼントをもらったようでした。

「聖ニコラウスの日は何をもらったの？」男

の子が女の子に聞きました。

「お人形よ。あなたは？」

「ソリだよ」と男の子は答えました。

男の子はダニエラにも、「聖ニコラウスの日は何をもらったの？」と、聞きました。

ダニエラは何と答えてよいかわかりませんでした。そして恥ずかしそうに、「何にも、だって聖ニコラウスの事、信じてないもの」と、答えました。

「どういうこと？」男の子は不思議な顔をしました。

ダニエラは、「私はアドベンチストなの。私たちは神さまを信じているから、その聖ニコラウスの日をお祝いしないの」と、言いました。

すると、そんなことを初めて聞いた男の子は、「変なの」と、言いました。

定期的に、先生は、クラスの子どもたちを街の小さな聖堂につれて行きました。初めて行った時、クラスメートがろうそくに灯をともして聖ニコラウスに祈る姿を見て、ダニエラは驚きました。今までそのような礼拝を見たことがありませんでした。ですから、家に帰ると、お父さんやお母さんに見たことを話しました。心配したお母さんが学校に連絡をしてくれたので、その後ダニエラは聖堂に行かなくてよいことになりました。

オルガというアドベンチストの女の子が加わったことで、ダニエラの学校生活に少し変化が起きました。ある日、オルガはニコニコほえみながらダニエラのもとに来て、「聞いて！ アドベンチストの学校が出来るの！ 私たちもそこに通えるわよ」と言いました。ダニエラは耳を疑いましたが、「嬉しい！」と叫びました。

それから1週間半後の2月11日、ダニエラ

は新しいアドベンチストの学校へ転校しました。何人かのアドベンチスト家庭の親たちが、子どもたちのことを想い、大きなアパートの一室を借りて学校を始めました。最初の年は 40 人のアドベンチストの子どもが集まりました。

ダニエラは新しい学校が好きでした。そこでは、先生が子どもを怒鳴らず、みな親切でした。友だちを作るのも簡単でした。

今は 180 人の子どもが、アドベンチスト大学のキャンパスに集まるようになりました。ほとんどの子どもはノンクリスチャン家庭から来ています。14 歳になったダニエラは 9 年生の中でたった 1 人のアドベンチストです。でも寂しくはありません。なぜなら、先生たちはアドベンチストですし、他のクラスにはアドベンチストの友だちがいるからです。「学校が大好きです。アドベンチストの先生が好きです。同じ信仰を持っている人が周りにいることはとても励まされます」と、ダニエラは言います。

今期の 13 回献金の一部は、ダニエラが通っている学校の建築に用いられます。今はアドベンチスト大学の教室を借りて勉強している子どもたちが、自分の教室で勉強する日が迎えられようご協力をお願いします。

〈お話のヒント〉

- 地図でウクライナ、ブチャ (Bucha) を探しましょう。首都キエフ (Kyiv) のすぐ横です。
- 子どもたちに、クリスチャンでいることに恥ずかしさを覚えたり、居心地の悪さを感じたりしたことはあるか質問しましょう。それはどうしてでしょう。「神に背いたこの罪深い時代に、わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子もまた、父の栄光に輝いて聖なる天使たちと共に来るときに、その者を恥じる。」(マルコによる福音書 8 章 38 節) と言われたイエスさまの言葉を紹介し、イエスさまを恥じる必要がないと励ましましょう。
- 次のリンクでダニエラのビデオを観ましょう。
[Bit.ly/Daniela-ESD](https://bit.ly/Daniela-ESD).
- 次のリンクでこの話の写真を見ましょう。
[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

宣教メモ

- ウクライナには、キリスト教の長い歴史があります。988 年、ウラジミール大王として知られるキエフのウラジミール大公は、東ローマ帝国皇帝バシレイオス 2 世の妹アンナとの結婚を取り決め、東方正教に改宗しました。その後、彼は多くの異教の神殿を破壊し、多くのキリスト教会を設立しました。

2. 神さまは何歳？

ウクライナ



ニキータ 12 歳

ニキータの家には、お父さんとお母さんの聖書が3冊あります。でも、誰も読んではいません。ニキータも神さまについて、特別興味はありませんでした。神さまについて聞いたことはありましたが、考えたことはありませんでした。

しかしある日、幼いニキータは人生について考え始めました。お母さんのところへ行き、「人間はどこから来たの？ 世界はどうやってできたの？」と、尋ねました。

「神さまが全てを造られたのよ」と、お母さんは答えました。

「どうして？」と、ニキータは尋ねました。

「神さまが幸せになるためにわたしたちを造られたのよ」と、お母さんは答えました。

ニキータにはよくわかりませんでした。「なぜ神さまは、ご自分が幸せになるために人間を造られたのだろう。なぜ神さまは、ぼくを造って喜ばれるのだろう」。ニキータには知りたいことがたくさんありました。その時、ニキータ

は家にある3冊の聖書のことを思い出しました。1つ目は紫色の大きな聖書です。2つ目は、灰色でそんなに大きくない聖書です。そして3つ目は、緑と黄色の小さな聖書です。

ニキータは「ぼくは小さいから、小さい聖書がちょうどいいかも」と、思いました。聖書を開くと、飴玉の包み紙が挟まれていました。そこには、「初めに、神は天地を創造された。」(創世記1章1節)と書かれていました。

「ついに見つけた！ 神さまがなぜ人間を造られたのかわかる！」と、思いました。

天地創造の話はとても魅力的で、ニキータは1度に何章も読み進めました。読み終わった時、お母さんが言ったことが間違っていたとわかりました。神さまは、ご自分が幸せになるために人間を造られたのではなく、人間を愛するために人間を造られ、神さまはご自分が造られた地球を人間に楽しんでもらいたいと願っておられることがわかりました。

ニキータは、お母さんのところへ行き、「聖書に何て書いてあったと思う？」と、言いました。

「神さまは、人間を愛するために人間を造られたんだよ。そして神さまは、ご自分が造られた地球を人間に楽しんでもらいたいと願っておられるよ」と言いました。

お母さんは、「まだ7歳なのに聖書を読むなんて凄い！」と、言いました。

次の朝、目を覚ましたニキータはまた聖書を開き、昨日の続きを読みました。ニキータにはまだ疑問に思うことがありました。神さまの年齢が知りたかったのです。しかし、その答えがなかなか見つかりません。ニキータはお母さんに「神さまは何歳なの？」と、聞きましたが、お母さんもわかりませんでした。

しばらくして、ニキータは、家の近くに教会

があることに気づきました。さっそくそこに行って質問することにしました。しかし、教会にいる人たちも答えを知りませんでした。ニキータは教会で礼拝するのが好きになり、毎週通うようになりました。

ニキータが毎朝聖書を読む様子を見て、お母さんは驚きました。そしてニキータがお母さんのそばでその日に読んだ聖書の話をしてくれることを喜びました。ニキータが教会に行き始めたのを知り、お母さんも教会に行くようになりました。

ニキータが 10 歳になった夏、お母さんは、「そんなに聖書のことが好きなら、神さまのことを教えてくれる学校に行ったらどう？」と提案しました。そしてお母さんは、ニキータをウクライナのブチャにあるアドベンチストの学校へ通わせました。そこでやっと、ニキータは神さまがどれくらい生きておられるのかを知りました。先生が、ヨハネの黙示録 4 章 8 節に書かれている、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方」というみことばを読んでくれました。つまり、神さまは永遠に生きておられるのです！ 神さまは生まれることも、死ぬこともありません。

12 歳になったニキータは、毎日 3 章ずつ聖書を読んでいきます。朝読む日もあれば、夕方、学校から帰ってきてから読んだり、夜に読んだりすることもあります。ニキータは、1 日の中で聖書を読む時間が一番好きです。ニキータは、「今ぼくは、神さまは生きていて、近くにいてくださることを理解することができるようになりました。神さまはいつも助けてくださいます」と、話します。

今期の 13 回献金の一部は、ニキータの学校の建築に用いられます。今はアドベンチスト大学の教室を借りて勉強している子どもたちが、自分の教室で勉強する日が迎えられるようご協力をお願いします。

〈お話のヒント〉

- 地図でウクライナ、ブチャ (Bucha) を探しましょう。首都キエフ (Kyiv) のすぐ横です。
- 子どもたちに、定期的に聖書を読むか質問しましょう。ニキータのように毎日読むことを勧め、毎日読むためにはどの時間が良いのか一緒に考えましょう。そして朝が一番おすすめであることを伝えましょう。
- 次のリンクでニキータのビデオを観ましょう。
[Bit.ly/Nikita-ESD](https://bit.ly/Nikita-ESD).
- 次のリンクでこの話の写真をみましょう。
[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

宣教メモ

- ウクライナ正教会と、そのあとに続く共産党は、ウクライナにおけるアドベンチストの活動に敵対していました。多くの教会員や牧師は、その信仰を理由に迫害され、何年も獄中で過ごし、ある人たちはスターリン政権下の収容所で亡くなりました。このため、教会は地下組織として発展し、アドベンチスト教会の組織がようやく設立されたのは 1978 年のことです。

3. 予期せぬ形での証

ウクライナ



ソフィア 13歳

ウクライナ、ブチャのアドベンチストの学校が始まった時、6年生のソフィアには、クラスに知り合いが1人もいませんでした。何しろ、その学校で最初の6年生クラスだったのですから、そこに集まった8人全員、お互いを知りませんでした。

6年生の女の子はソフィアとターニャの2人だけだったので、2人はすぐに仲良くなりました。ソフィアはアドベンチストの家庭で、毎週教会へ行っていました。一方、ターニャの家庭は教会に行っていませんでした。

ソフィアは、ターニャに神さまのことや教会に行くことを教えました。ターニャは話を聞いて、「どうして日曜日ではなくて土曜日に教会に行くの？」と、質問しました。

「聖書に、土曜日が聖なる日と書かれているからよ」と、ソフィアは答えました。

別の日に、ターニャは、「どうして、長いスカートををはくの？」と、ソフィアに尋ねました。

「聖書には、控えめであるよう書かれている

からよ」と、ソフィアは答えました。

しばらくたったある日、6年生はお昼ご飯を食べながら、「悪い言葉遣い」について話していました。

1人の男の子が、食べていたマッシュポテトから目を上げ、ソフィアに言いました。

「君が悪い言葉を使っているのを、聞いたことがないよ。使ったことある？」

「1回もないわ」。ソフィアは自信をもって答えました。

男の子はターニャを見て、「君が使っているのも聞いたことがないよ。使ったことある？」と、聞きました。

ターニャは恥ずかしそうに、「前はしょっちゅう使っていたわ」と言いました。

ターニャはソフィアを見ながら、「ソフィアのおかげで使うのをやめたの」と、言いました。

学校が始まったころ、アドベンチストの家庭から来ていない子どもは、先生が聞こえないような小さな声で悪い言葉を使っていました。それを聞いたソフィアは、「そういう言葉は使わないで」と、優しくお願いしました。

それを見たターニャは、ソフィアが悪い言葉を聞いて悲しむことを知りました。

ターニャは、男の子に、「クリスチャンのソフィアは、悪い言葉を使わないことを知ったの。だからそれ以来、私も使わないようにしたのよ」と、言いました。

それを聞いて、ソフィアはとても驚きました。そして、自分が意識していても、していなくても、神さまの証し人であるという話を思い出しました。自分の知らないうちに、ターニャにクリスチャンの姿を証ししていたのです。

その日家に帰ると、ソフィアは今日の出来事をお母さんに話しました。

「ママ、ターニャは私が嫌な気持ちにならないように、悪い言葉を使うのをやめたのよ」

お母さんはとても喜び、「素晴らしいことね！ あなたの生き方が神さまを証ししたのね」と、言いました。

夜、寝る前、ソフィアはベッドの横にひざまずき、知らない間に神さまを証しできたことを、神さまに感謝しました。

そして、「これから、ターニャに神さまを証しできるように助けてください」と、祈りました。

今でもソフィアは、日々神さまの証し人として生活できるように祈っています。

「ターニャとの出来事は素晴らしい経験になりました。ターニャの人生の中で、私が大きな意味ある存在ということに驚きました。意識していても、していなくても、クラスメートに神さまを証ししているということを覚えていたいです」

今期の 13 回献金の一部は、ソフィアの学校の建築に用いられます。今はアドベンチスト大学の教室を借りて勉強している子どもたちが、自分の教室で勉強する日が迎えられようご協力をお願いします。

〈お話のヒント〉

- 地図でウクライナ、ブチャ (Bucha) を探しましょう。首都キエフ (Kyiv) のすぐ横です。
- ソフィアのように、黙っていても神さまを証しした経験があるか、子どもたちに質問しましょう。良いことでも、悪いことでも、どんなことをしていても、私たちは神さまの証人であり、周りの人の影響を与えることを説明しましょう。
- 次のリンクでソフィアのビデオを観ましょう。
[Bit.ly/Sofia-ESD](https://bit.ly/Sofia-ESD).
- 次のリンクでこの話の写真をみましょう。
[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

宣教メモ

- ドイツ人宣教師のペルカとカンダードは、この地域でアドベンチストのメッセージを教え、それはウクライナ南部やコーカサス地方の黒海沿岸部では初めてのことでした。1886 年に行われたバプテスマのあと、バルディブラット村に 17 人の教会員を擁する最初のセブンスデー・アドベンチスト教会が設立されました。

4. 安息日は学校に行きません キルギス



カミラ 13 歳

キルギスの首都ビシュケクに住むカミラは、8年生（中学2年）になりましたが、大きな問題を抱えていました。それまで、学校は月曜から金曜まででしたが、今年度から公立学校の8年生は月曜から土曜まで勉強することが義務付けられました。

カミラとお母さんは助けを求めて牧師先生を訪ねました。お母さんは、聴覚しょうがい者で、聞くことも話すこともできません。カミラはお母さんが手話を使って説明することを、牧師先生に伝えました。

「祈りましょう」と、牧師先生は言われました。

そして、牧師先生は、カミラが土曜日に休めるように学校宛てに手紙を書いてくださいました。

カミラとお母さんは、その手紙を持って、担任の先生のところへ行きました。しかし、先生は認めてくれませんでした。

「校長先生に聞かなくてははいけません」と、

担任の先生は言いました。

そこで、カミラとお母さんは、校長室へ行きました。「失礼します。母がお話をしたいと言っています」と、カミラは言いました。

お母さんは、牧師先生からの手紙を校長先生に渡しました。校長先生は、手紙には目をむけず、「何ですか？」と聞きました。

お母さんが手話を使って話すのをカミラは校長先生に伝えました。

「その手紙には、私たちが土曜日に教会に行くことが書かれています」と、カミラは説明しました。

「私たちは、セブンスデー・アドベンチストです。私たちは土曜日に仕事をしたり、学校に行ったりしません。どうか、カミラが土曜日に学校を休むことを許可してください」

セブンスデー・アドベンチストについて初めて聞いた校長先生は、「他のクリスチャンは、日曜日に教会に行きます。あなたの娘さんも日曜日に行ったらどうですか」と、言いました。「そうすれば、土曜日に学校に来ることが出来るでしょう」

お母さんは、アドベンチストが他のクリスチャンと違って、土曜日には仕事や勉強をしないことを説明しました。

校長先生は、首を振りながら、「ここはクリスチャンの国ではありません。信じていることと違っていても金曜日に学校に来ている生徒もいます。だから、カミラだけを許可することはできません」と、言いました。

次の安息日、カミラは学校へ行かず、お母さんと教会へ行きました。お母さんは、教会に来ていた、セブンスデー・アドベンチストの学校の校長先生を見かけました。その学校は、カミラたちの住む町から車で2時間程離れたトク

モクという場所にありました。

礼拝後、お母さんは、その学校の校長先生にカミラの置かれている状況を説明し、カミラがアドベンチストの学校に通うことが出来ないか相談しました。

「お祈りしましょう」と、校長先生は言いました。

その場で、校長先生はカミラのために祈ってくださいました。カミラのお母さんにはカミラをアドベンチストの学校へ行かせるだけのお金がありませんでしたので、誰か学費を払ってくれる人が与えられるように、みんなで祈りました。

「スポンサーが見つかったら、来週お知らせしますね」と、校長先生は言いました。

一週間、カミラは、神さまが良い人を与えてくださるようにと祈りました。

「神さま、学費を払ってくれる人を与え、私を祝福してください。どうぞその人のことも祝福してください」

次の安息日、礼拝が始まる前に校長先生がカミラを呼びました。ニコニコほほえみながら、「神さまは、あなたを祝福してくださいましたよ。学費を負担してくれる方を見つけました」と、言いました。

「ありがとうございます！」カミラは大喜びしました。

次の日、カミラはアドベンチストの学校の寮に入りました。そこでは、勉強するだけでなく、床掃除の手伝いをしてお金を稼ぎ、学費の一部を自分でまかなっています。

「安息日を守れるようになったことを、神さまに心から感謝します」

3年前の13回献金の一部は、カミラの通う学校の体育館建築に用いられました。キルギスだけでなく、ユーロアジア支部のアドベンチスト教育をお支えくださりありがとうございます。

〈お話のヒント〉

- ・地図でキルギスのトクモク (Tokmok) を探しましょう。

- ・子どもたちに、安息日問題に直面したことがあるか質問しましょう。どのように解決したのでしょうか。安息日を聖別できるよう励ましましょう。

- ・次のリンクでカミラのビデオを観ましょう。 [Bit.ly/Kamila-ESD](https://bit.ly/Kamila-ESD).

- ・次のリンクでこの話の写真を見ましょう。 [Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

豆知識

- ・キルギスの文化の中で、乗馬は今でも重要視されており、キルギスの伝統的な競技や国技の多くにはそれが反映されています。競馬はもちろん、長距離レースを中心に高い人気があります。



5. イエスさまのために輝く

ロシア



イリヤス 9歳

イリヤスは16歳の兄と一緒に、ロシアにあるザオクスキー・アドベンチスト大学内の教会の席に座っていました。お父さんとお母さんは反対側の席に座っています。

普段、イリヤスはお父さんとお母さんと一緒に座りますが、今日は兄のアイザックとその友だちと一緒に座るように誘ってくれました。

アイザックはイリヤスと一緒に座ると、礼拝中に自分の携帯電話で車のレースゲームで遊ぶことを許してくれます。イリヤスは、教会でゲームをしてはいけないことを知っていたので、今日はゲームをせず、説教を聞こうと心に決めていました。説教者は自分の体験を交えながら聖書のお話を興味深く語ってくれます。

イリヤスが説教に聞き入っていると、教会の窓を通して朝日が差し込み、説教者を照らし始めました。説教者が輝き始めます。まぶしいほど明るい白い光が説教者の手、体、頭を包み込みます。説教者は洗濯したての白い服よりも白

く、明るく輝いていました。

イリヤスは瞬きをしました。「本当かな？ まるで天使みたいだ」

説教者はまるで太陽のように輝いています。イリヤスは目を細めてみました。光が明るすぎて、目が乾くので、何度も瞬きをしなければいけません。目を閉じては、開き、そしてもう一度説教者を見直しますが、説教者はまだ輝いています。

イリヤスは、同じように説教を聞いているアイザックを見ました。イリヤスは、アイザックにも説教者が輝いて見えているのか気になりました。でも質問したくはありませんでした。もし、これがアイザックには見えていなくて、馬鹿にされるのは嫌でした。

説教が終わるまで、説教者は輝き続けました。イリヤスは自分が見たことを誰にも言わないことにしました。もしかしたら、それは、神さまと彼の間に起きた特別な出来事かもしれないと思ったからです。

数日後、イリヤスはマタイによる福音書5章のイエスさまの山上の説教を読んだ時に、輝いて見えた説教者のことを思い出しました。イエスさまは、「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」(マタイによる福音書5章14、16節)と、言われました。

イリヤスは、自分自身も輝けることに気がつきました。イエスさまは、立派な行いをする人はイエスさまのために輝く人だと言われたからです。

「僕も輝こう！ 一生懸命勉強して良い成績

を取ろう。お母さんが夕食を作るのを手伝ったり、スーパーに買い物に行ったりすることができる。庭の草刈りをしてお父さんを手伝うこともできる。他にも周りの人を助けるためにできることをたくさんして神さまのために輝ける。僕は、神さまのために輝きたい」

今期の 13 回献金の一部は、イリヤスの通う学校がザオクスキー・アドベンチスト大学内に専用の建物を建築することに用いられます。現在は大学の教室を借りている子どもたちが、自分の教室で学べるようになります。たくさんの献金を心より感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でロシアのザオクスキー（Zaoksky）を探しましょう。
- 子どもたちに、どのようにイエスさまのために輝くことができるか質問しましょう。
- 次のリンクでイリヤスのビデオを観ましょう。
[Bit.ly/Ilyas-ESD](https://bit.ly/Ilyas-ESD).
- 次のリンクでこの話の写真を見ましょう。
[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

豆知識

- マトリョーシカとは、ロシアの入れ子人形のことで、木製の人形を開けると、中から同じような小さめの人形が 6 個くらい出てきます。人形の形は、通常、滑らかな円筒形で、とても精巧な絵が描かれていることが多いです。最も一般的なテーマは、伝統衣装を着た農民の女の子ですが、有名な政治家やおとぎ話など、ありとあらゆる種類があります。



6. イヴァンの一番幸せな日

ロシア



イヴァン 12歳

今日、イヴァンは、1日中学校で勉強しなくて良いことにワクワクしていました。その代わりに、イヴァンたちはコンサートに出演します。

朝、イヴァンはギターを持ってザオクスキー・クリスチャンスクールに登校しました。イヴァンと同じようにギターを持つ5人の友だちと先生は教室に集まってお祈りしました。

先生は、「神さま、コンサートに行きますが、どうぞ私たちをお守りください。コンサートで演奏する私たちを祝福してください。そしてここに帰り着くまでお守りください」と、祈りました。

イヴァンたちは、ギターを手に取ると、10分かかかる駅までの道のりを先生について一生懸命歩きました。電車が来ると、乗り込み、約30分間移動しました。電車から降りると、また10分程歩きました。ギターはとても大きく重いので持ち運びやすいようにケースに入れてあります。

大きなコンサートホールで、イヴァンたちは、他の子どもたちがバイオリンやギターなどの

楽器を演奏するのを聞いて、自分たちの番を待っていました。ホールは音楽フェスティバルのために来た他の学校の子どもの演奏を聞く多くの人で混んでいました。

何時間も過ぎ、先生は心配し始めました。帰りの電車は5時に出発します。もし、それを逃すと次の電車は7時で、2時間も待たなくてはなりません。7時の電車で帰ると家に着くのが遅くなってしまいます。

やっと、イヴァンたちの演奏の番が回ってきました。持ってきたギターを使って、元気のよい曲を演奏しました。終わった時には、大勢の子どもや大人が拍手してくれました。

しかしイヴァンたちは、演奏後の余韻を味わう間もなく、急いでギターをケースに戻し、先生について駅に向かいました。もう少しで5時でした。みんなとても急いでいましたが、先生はみんなを道の端に寄せ、「急いでいる今こそ祈りましょう」と、言いました。イヴァンたちは目を閉じました。先生が、「大好きな神さま、コンサートではたくさんの祝福をくださりありがとうございました。どうぞ、私たちが時間内に駅に着くことができるように守ってください」と、祈りました。

イヴァンたちは、出来る限りの速さで歩きました。本当に時間通りに駅に着くのでしょうか。とても長く感じた時間が過ぎ、前方に駅が見えてきました。5時ちょうどです。

イヴァンたちは、急いで駅に入りました。電車はありません。少し遅れているのかと思い、少し待ちましたが、電車は来ません。しばらくしてイヴァンは上の看板に書かれている電車の時刻表に気がつきました。5時出発の電車はなく、5時10分発の電車があります。

イヴァンは、「先生！ 電車は5時10分発に

なっていますよ。どうしてですか？」と尋ねました。

先生も時刻表を見て、驚きました。先生は、「私、間違っていたわ！」と、叫びました。もともと5時の予定の電車はなく、5時10分の電車が正しかったのです。

イヴァンの心は喜びと神さまへの感謝で溢れました。心の中で、「神さま、電車より早く駅に着くことができ、本当に感謝します」と、祈りました。

数分後、電車が到着しました。イヴァンは、この日のことを忘れることはありません。

「あの日、神さまは、僕たち全員のことを幸せな気持ちにさせてくださいました。僕たちは、神さまによって、時間どおりに駅に着くことができたのですから」

今期の13回献金の一部は、イヴァンの通う学校がザオクスキー・アドベンチスト大学内に専用の建物を建築することに用いられます。現在は大学の教室を借りている子どもたちが、自分の教室で学べるようになります。たくさんの献金を心より感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・地図でロシアのザオクスキー（Zaoksky）を探しましょう。モスクワの南に位置しています。
- ・次のリンクでこの話の写真を見ましょう。
[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

〈次回の13回献金プロジェクト〉

- ・保護者にこのプログラムのことを思い出させ、子どもたちが3月27日に13回献金を持ってくるよう、勧めるために各家庭へメモを送りましょう。伝道献金が世界中に神様のみ言葉を広めるための贈り物であり、また、私たちの13回献金の4分の1は、ユーロアジア支部の2つの伝道計画のために直接用いられることを皆に思い出させましょう。伝道計画は大人の『聖書研究ガイド』の裏表紙に掲載されています。
- ・語り手が物語を暗記する必要はありませんが、資料を読まなくてもいいように十分に読み込んでいる必要があります。また、子どもたちがイヴァンや同級生、先生の役になって、物語を演じることもできます。
- ・物語の前後では、地図を使い、13回献金を受けるロシアとウクライナを見せてください。それぞれの場所が献金からどのような恩恵を受けるかを簡単に説明しましょう。